

光市医師会報

昭和56年1月発行

100号記念

謹 賀 新 年

光市医師会

新年を寿ぎ、 光市医師会報100号発刊を祝う。

医師会長 大野宗二

会員の皆様、新年御目出度うございます。無事御越年、新しい年を迎え、心を新にして、本年度の抱負に想いを寄せられておることと存じます。一年の計は元旦にありと申されておりますが、各人それぞれ、過ぎし過去を振りかえり、新しい年の希望と夢に、未来への確かな充実した実りある仕事に豊かな展望と期待と決意を抱かれておることと存じます。御自意御自愛、会員の皆様と御家族の御健康と、医療機関の充実を基盤として、益々御活躍、御発展されることを心より切に願うものであります。1980年代は激動の時代と申されましたが、正にその通り、一国の出来事は直ちに世界各国に波及して、政治の動向に変化を及ぼし、引いては国内の政治と国民の生活に種々な変動を及ぼしてまいります。世界は正に狭くなった感を深うするものであります。亦日々、新聞、テレビ、ラジオ等で報導されるおびただしい、種々のニュースは、吾々の思考に、意識に、とまどいと、不安と、いらだちを、もたらさずにはおられません。

医療に関する面におきましても、既に十数年来、一日として医療と医師に対する批判と攻撃のない日はありません。所謂、医療の荒廃の言葉に集約されて、悪玉の最たるもの仕立てられておるのが現状であります。在所決の病院に発生した、無資格非医師の診療事件は、内面において、みにくい政治家との癒着をはらみつつ医療への攻撃の場となり、国民の医療に対する不信感をつのらせております。司法と裁判の手

により、やがて全貌は解明されるでしょうが、厚生省は、医の110番を設定して、国民の医療に対する不満と苦情を集収し、三省庁連絡会議を発足させて、医の言葉を借りれば、医師に対する人民裁判的、憲兵政治的様想を呈して官僚の圧迫が増加しつつあるのが現状でありましょう。本年度は、以上の問題をはらみつつ、診療報酬改正の問題も含めて誠に多事多難な年となるような気が致します。医療の問題は、制度的問題等多種多源の因子を含んでおる問題で、単純な内容ではないと考えられますが、吾々は冷静に理比を分析判断して、いたずらに世流に迎合して押し流されることなく、問題に対処して行かねばならないと考えます。吾々地方医師会としても、会員の皆様と一致協力、大いに論議を深め、吾々自身の医師会の諸問題に取り組む事が必要と考えております。

拙言が長くなりましたが、会報も遂に100号発刊の快挙を迎えることとなりました。誠に御目出度うございます。100号と申しますと、8年3ヶ月、歩み続けて、一つの仕切りとして、100号の目標に到達したことは、ただ単に、一言にして簡単にかたづけえない光市医師会としての輝かしい業績と云えるでしょう。勿論内容として、不備不満な点も多々ある事は勿論認めざるを得ませんが、編集者の云い知れぬ苦勞も察しねばなりません。ある仕切りを記念する出版物や記事は数多くあります。創立100年であり、100回であり、100号で

ある場合等種々であります、それぞれを一讀して永い歴史の重みと、目標達成の苦勞をよみとる時、深い感激を味うことがあります。スポーツ界におきましても、王選手の876号ホームラン、張本の3000本安打、衣笠の10年連続試合出場、野村の20数年内の生涯一捕手の記録等、彼等の語る回顧的人生觀に深い味わいを感じずにはおれません。ここで当初会報編集に携わった一人として、会報の歴史を振り返ってみたいと思います。手書き医師会報を発足した第1号は昭和46年4月15日であります、その後昭和47年7月まで第15号をもって手書き発行を中止し、現在の様な印刷、正式な医師会報として第1号発刊に歩みきつたのは、昭和47年の8月であります。その後8年3ヶ月の歩みをつづけて、遂行記念すべき100号に到達しました。第1号発刊にあたっては、編集方針をいかにすべきか、会報の性格は何か等編集委員会において深刻に論議したことを思い出します。結果としては現状の様な内容として経過し、決して満足すべきものではなく、現編集担当の理事においても日夜苦慮されておることと思ひます。然かし不満足のものとは云え、100号を達成した中には歴然として光市医師会の歩みが確実にしるされております。各年各月に何があったかを明らかにする事ができる事を確信を以て御伝えできることは、会報の大きな誇るべき足跡ではないでしょうか。将来試行錯誤、編集の悩みを克服して、会員全員参加のもとに、よりよい会報へと発展してゆくことを念願しつつ、100号達成の御祝いを心より申しあげたいと存じます。

行く雲に、陽のてるときも、

くもる日も

(大野)

医師会月間行事

◎定例理事会

12月9日(火) 7・30

光市医師会館

○報告事項

1. 自主郡市医師会正副会長会議報告

12月7日 県医師会館において、柳井医師会が当番幹事として開催された。

① 医療110番についての医師会としての対応

11月20日から医療相談コーナーオープン 当日まで118件 電話による苦情が多い。

県医師会としての対応としては、問題と情報は郡市医師へ流す。

日医の情報乏しい。

② 医療情報システム

端末機の設置の仕方、二次情報として利用

③ 点数通知制度の誤記について県医師会の対応と態度について

誤いのないように県側から指導

④ これからの医療は如何にあるべきか

⑤ 県が実施する乳幼児検診の郡市医師会の実施状況について、個人か、集団か専門医か。 殆どが個別

⑥ 夜間診療依頼券を持たずに来院した生保患者の取り扱いについて

案として、各月の印のある証明書を発行しては。診療依頼書の発行の仕方に就いて

⑦ 税理士の関係する対税対策

税理士に依頼していても、申告間違いや諸問題が起きてても、最終の税の申告責任は、税理士でなくて医師である。

- ⑧ 時局に対する医師会の解説、対応、見透し等について医師会の発表がないのはどうということか。
県医師会のコメント
- ⑨ 医師会の広報活動のあり方
医師会側としてのPRの仕方（事情や主張の仕方）
- ⑩ 医師会の浄化能力について
会に出てこない会員に対する対応の仕方について
- ⑪ 税制改革、医療監査の強化、医療110番の設置、健保法の改正等医療に対する官僚の圧迫の加わる中で、日医等のこれに対する見解
- ⑫ 次の開催 幹事 長門市
- 2. 日本医師会提唱の健康開発会議の開催について
来年まで静観とする。
- 3. 12月29日、30日、31日の休日加算の取り扱いについて
省略（配布済）
- 4. 会計検査院の山口県の監査について
- 5. 医療事故紛争委員会報告

現在の医事紛争の状況について出来るだけ遺体解剖を推めること、及びに死体解剖引き受け機関について（徳山中央病院・山大法医学教室）富恵先生に御相談下さい。

6. 忘年会の開催について

○協議事項

- 1. 交通傷害保険の掛金徴集方法を毎月を6ヶ月毎に改めることについて
- 2. 事務職員のボーナス
例年並みで、4ヶ月分
- 3. 要望書の配布
- 4. 学校保健研修会の開催について
予定として 講師 佐賀大学教育学部教授 山口 剛氏
演題として「心身医学的観点からみた児童期の情緒障害」（自閉症・情緒障害について）

2月11日（木）2時半～4時

◎昭和55年度忘年会並月例会

12月20日（土）午後7・00

松屋旅館

下松・光医師会対抗
ゴルフコンペ

12月14日 日曜日 前日から強風と寒波に山は白く周南カントリークラブへの道も凍って、冷い風にはく息は白くても、朝8時すでに練習場には幾人もなじみの顔が揃って白球を打っていました。

両医師会ともに歯科医師会員を加えての対戦でしたが、昨年一昨年に続いて残念ながら僅かな差ですが、381対372で負けてしまいました。しかし、光勢の中では歯科の守田先生が優勝、精神病院の藤村先生の活躍が目立ちました。来年はもうすこし真面目に、この大会に的をしぼって取り組んで一指をむくいたいものです。

Name	Out	in	Gross	Hd	Net	Order	
高 島	57	57	114	30	84	24	
小 林	49	48	97	22	75	4	
梶 原	49	55	104	28	76	7	
岡 藤	53	55	108	20	88	26	
福 本	74	68	142	36	106	30	猛打賞
後	58	55	113	36	77	9	
重 岡	55	63	118	36	82	16	
竹 中	53	54	107	25	82	18	

村上	51	57	108	27	81	14	当日賞
下村	68	59	127	28	99	B. B	
伊藤	58	50	108	30	78	11	
河内山(清)	52	54	106	24	82	17	
玉重	50	48	98	20	78	10	
武居	52	57	109	22	87	25	
松野	62	62	124	30	94	28	
大野	53	52	105	20	85	23	
山本	49	44	93	21	72	準優勝	
藤岡	52	56	108	27	81	13	
水津	49	46	95	22	73	3	
亀田	55	53	108	22	86	24	
森本	50	50	100	18	82	20	
白倉	46	48	94	14	80	12	
篠山	43	52	95	19	76	8	
守田	47	40	87	16	71	優勝	
西辻	46	44	90	8	82	19	
小畑	49	55	104	15	89	27	
儀本	44	46	90	15	75	6	
藤村	48	40	88	13	75	5	
諏訪	46	47	93	12	81	15	
白倉(守)	47	49	96	12	84	22	

光		下松	
守田	71	山本	72
藤村	75	水津	73
儀本	75	小林	75
伊藤	78	梶原	76
河内山	82	篠山	76
計	381		372

趣味

前田 俊男

ある日のこと、ある人が「先生はよい趣味を持っていますね。」と、僕曰く「何!! 趣味だって? 僕にはそんな気の利いたもの持っていませんよ。持っているとしたら難行苦行だね。」と答えた。而し残念だから辞書をひいて見た。新国語辞典 曰く(一)一定の習練を経た後に味はへる其のものを持つ面白味。又曰く利益等考へず好きでしていること。と書いてあった。

正しく僕の場合は難行苦行のようだ。そもそも事の起りは僕が謡曲をやっているこ

とを、いや習っていることその意味しているよううだ。誉められているのかどうか解らないがとに角やっていたことは間違いない。振り返ってみると約四・五十年にもなるかな、人にそう思われるのも致し方ない。僕が謡を習い始めたのは、いや習はせられたのは、満州事変の始り当時のこと、大学から北海道の小樽市立病院の耳鼻科に行かされた時からの事である。当時は十月下旬、そろそろ雪が降り始めた頃である。病院にはその道の大家、いや天狗がいた。よき鴨御参なれとばかり、雪の夜道を師匠の道場へと案内され、有無を云わさず習わされた。

其の後、同病院を辞して現在の北九州市戸畑区の一隅に開業した。ここにも相変らず大天狗小天狗がいた。時の会長(医師会長で謡の大天狗)の命を受け師匠なる人がやって来て、警戒警報をものともせず暗幕下で教え始めたものである。天罰靦面B29から有難くもない焼夷弾を一発戴かされた。万事窮す。間もなく久留米師団へ入隊、衛生軍曹なる肩書を戴き、当光市にあった旧

海軍共済病院に赴任した。間もなく終戦、続いて当光市（小生の古里）の現地に開業。又ぞろ同好者とその道の師匠を探し出し習い始めたものである。それである人から「よい趣味ですね」と云われた訳である。かように振り返って見ると難行苦行である。

「一年の計は元旦にあり」とか。ここらあたりで趣味ならぬ。この難行苦行を杖として、残り少い人生行路を楽しく進みたいものと思っております。

親 不 言

田尻常太郎

先生こりゃいいものがありますね。
あゝもう10年以上も前からそこに居据ったまゝだよ。いやあね、この間萩に行った時一寸した贈物にするのに手頃なものでもあればと思って萩焼の店を覗いて見たんですよ。そしたらねこれの三分の一位の物が五万円もするんですよ。これ位の大きさの物なら四五十万円ってところですかね。半年位前座敷の敷物を取り替える時立てゝいた座卓（50cm×90cm輪島塗り）を誤ってこの獅子の焼物のピンと上を向いて突立っている尻尾の上に倒して了つて座卓の方に穴があいた。失敗ったと思ってコワゴワ覗いて見ると全然異常なしその鞏固さに驚いてウーンこいやあ真物だなあと思った。この萩焼は私が医師会長を辞めた時の記念品として頂いたものである。確か亀田先生方のお見立てだとか伺った様に思う。それからもう一つ似た様なものが我が家の玄間の壁にかゝっている。お爺ちゃんお爺ちゃんのうちにはお爺ちゃんが二人居るね。このややこしい云い方をしたのは一年に2～3回やって来る四才になる孫の男の子である。額縁におさまっているエビス様に似たこ

れも焼物の能面様のもので、福岡県英彦山の麓近くの窯で焼かれた物とかで、七ヶ年余り牛島えの僻地診療に盡したという事で初代徳山保健所長三宅賞を頂いた時副賞として朝日新聞社から寄贈品である。他の額や掛物は季節等によって取り替えられる事があるがこの二つはどういうものか10年一日の如くそのままである。恐らくこれからもそのまゝであろう。子供達の代になった時、仏壇と共にこの二つがどういう形で私の家に残るかそこまでは分らない。私即便箋一枚の月報様のものを毎月一回出してから10年以上経過した。その間名伯楽たちに引き継がれて美事に充実したものになりつつある。今後の生長が楽しみだ。会員各位の健斗を祈る。慾を云えば理事会の様子が伺える様な記事が欲しい。

あとがき

あけまして、おめでとうございます。新年を迎えて新たな抱負を持って取り組まなければいけないのですが、才能のないものは、一つだけでも改めてやっていきたいものだと思っています。

大野会長と元老の前田・田尻両会長に新年と100号記念に原稿をいただき有難うございました。

今年は更に難かし状況の中において医師会活動が運営には円滑に、活動にはもっと積極的になりますよう何とぞ宜しくお願い申し上げます。

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	大野宗二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社